

在宅のWA 祝 創刊号！ (令和元年.6月号) ~和・話・輪~

この度、和歌山市医師会在宅医療サポートセンター運営委員会にて、在宅医への理解促進のため、和歌山市医師会在宅医療サポートセンター登録医の日頃の業務内容や活動等について、ニュースレターを通して情報を発信することになりました。更なる在宅医療への理解促進、医療関係者間や医療と介護の更なる連携を深め、医師同士のネットワークの推進の一助となればと考えております。医療介護に関するトピックス等も掲載予定ですので、乞うご期待ください。

創刊号は、「市民のニーズ調査結果の報告」と在宅医療をメインにされている「たぶせ在宅クリニック」の田伏先生に在宅医の業務や日頃の活動内容について、発信していただきます。



「和」歌山市の在宅医療の「話」を通して、互いに相手を大切にして協力し合える「人の和」ができ、医療関係者間、医療職と介護職のとの効果的な連携が重層的に「輪」となっていくイメージを期待してネーミングをしてみました。

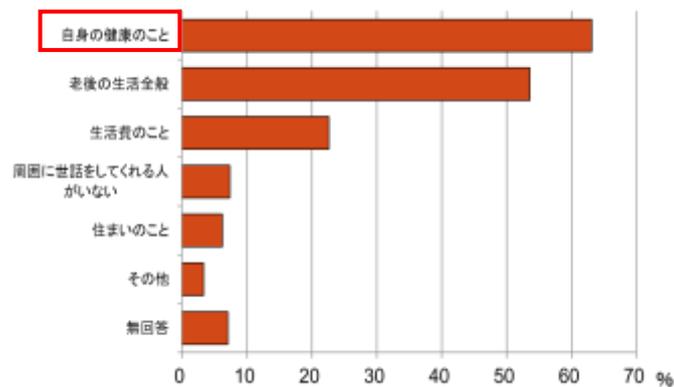
「在宅のWA」のタイトルの由来

TOPICS！！

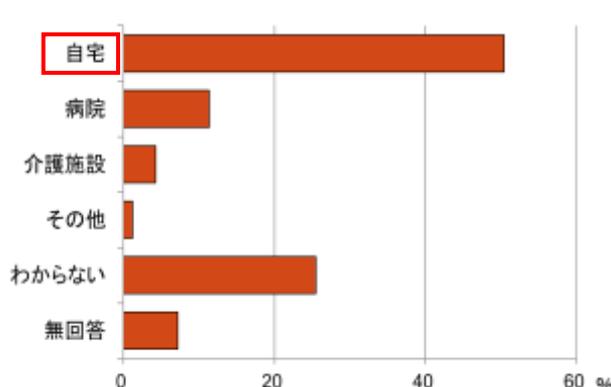
和歌山市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 一部抜粋 (H29年11月)

対象者：要介護認定を受けていない65歳以上の市民4,800人 調査回収率(57.2%)

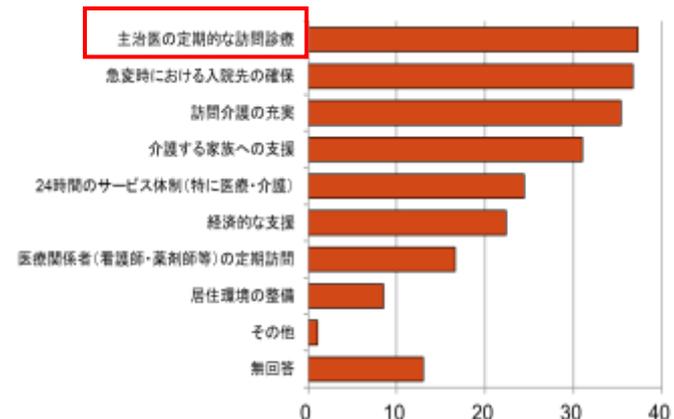
今後の生活で不安を感じることは何ですか？



「人生の最期を迎える場所」としてどこを希望されますか？



自宅で最期まで療養するためにはどのようなことが必要だと思いますか？



市民の声 市民の思い

【まとめ】

今後の生活で不安を感じることは、「自身の健康のこと」が63.1%で割合として最も高いです。「人生の最期を迎える場所」として、「自宅」が50.4%と最も高く、自宅で最期まで療養するために必要なこととしては、「主治医の定期的な訪問診療」(37.3%)、「急変時における入院先の確保」(36.7%)となっています。

医療や介護が必要となったときに、住み慣れた地域で必要かつ適切な医療と介護を一体的に提供でき、人生の最終段階において自分のあり方が尊重される地域づくりをさらに推し進めていきたいと考えています。

Q1. 貴院について、教えてください

A1. 皆様、こんにちは。たぶせ在宅クリニックの田伏弘行です。在宅専門で一体どんな診療をしているのかと訝しく思っておられる先生方がおられると思いますので、当クリニックの訪問診療を紹介させていただきます。当クリニックは平成 29 年 6 月に開院したばかりのまだ新しいクリニックです。勤務医時代は消化器内科医として、抗がん剤治療と緩和ケアに従事していました。現在は、自宅で最期まで過ごしたいという患者を中心に、看取り対応も含めた訪問診療を行っています。

Q2. 「在宅医療」でどんなことをしていますか？貴院の特長も教えてください

A2. 訪問診療は昔からされている先生方も多いと思います。当クリニックは 24 時間 365 日の対応をお約束しています。つまり、必ず私と連絡が取れ、必要なら往診に来てくれるという安心感もお届けしています。いつでも往診が可能とするために外来診療は原則行っておりません。また訪問エリアを限定(概ね 3km 以内)し患者数を制限しています。

これは 1 人当たりの診療時間を十分に確保し(15~60 分)、患者・家族とじっくりと診療及び話し合いをするため、急な往診依頼にも柔軟に対応するためです。また訪問看護ステーション、ケアマネージャー、病院の連携室スタッフと緊密な連携も行っています。



訪問は看護師 1 名と共に 1 日 5~6 件程度行い、時間外・休日の往診は月に 4~8 回程度です。定期訪問の回数は、症状安定している場合は月 1~2 回、病状悪化があれば月 3 回以上に増やし、看取り期は毎日訪問する場合があります。処方原則院外処方、患者宅の近くの薬局を個々に利用しています。電子カルテを導入し患者宅でもカルテ参照/記載出来る態勢ですが、実際には患者宅ではカルテを見ずに本人・家族と対話をしながら必要な診察を行い、クリニックでカルテ記載を行います。

末期がんの方には在宅ホスピスケアを提供しています。末期がんの訪問診療期間は平均 30 日しかありません。本当に短い予後の中で、一人一人の希望に応じた診療と、医療用麻薬も含めた十分な症状コントロールを両立することで、まるで老衰のような穏やかな最期を迎えて頂けることを目指しています。開院して約 2 年ですが 82 名(がん 65 名、非がん 17 名)のお看取りをさせていただきました。

Q3. 和歌山市医師会の皆様へ伝えたいことは？

A3. 新たな挑戦として昨年からは病院小児科医と小児に特化した訪問看護ステーションの協力のもとで小児在宅医を開始しました。これらの取り組みを通じてたとえどのような患者でも本人・家族が希望する在宅医療を受けて頂けるように、在宅専門医としての役割を果たしたいと考えています。

また当クリニックでは死別後の家族で希望者へのグリーフケアも大切な役割としています。死別後の悲嘆から回復するのが難しい方がおられますので、想いを傾聴し本人への振り返りを一緒に行いながら、お気持ちも少しでも前に向いて頂けるようお手伝いをしています。

在宅医療は密室医療でもありますので、外部からは非常に見えにくい医療です。在宅医療の普及のために当クリニックでは積極的に診療内容などを公開していますので、ご興味のある方は、ホームページのブログもご覧頂ければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。